



Mangghaと漫画： 日本の顔いろいろ

日本美術・技術博物館 Manggha、ヤギエロン大学日本中国学科共催
Manggha 博物館 30 周年記念国際研究学会
2024 年 10 月 3－5 日

1994 年、クラクフでは、アンジェイ・ワイダとクリスチナ・ザハトヴィッチ・ワイダの提唱によって設立された日本美術技術博物館マンガが開館されました。その名前は、日本美術のコレクターであったフェリクス・ヤシェンスキ（1861-1929）の雅号にちなんでいます。開館 30 周年を迎えて、マンガ館はヤギエロン大学日本中国学科と共同で国際研究学会を開催するにあたり、発表募集を開始します。

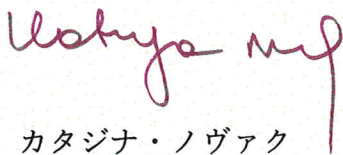
「マンガ」という言葉は曖昧さに満ちています。一般的には日本のコミックを連想させますが、多くの美術の専門家は主に葛飾北斎の浮世絵師のスケッチを連想します。マンガといえば、クラクフの美術館やフェリクス・ヤシェンスキの姿が思い浮かびます。マンガはハイカルチャーとポップカルチャー、過去と現在、アートとテクノロジー、東洋と西洋を融合させています。マンガは教え、楽しませ、刺激し、困惑させ苛立たせます。そして日本もまたそうです。

学会のテーマは「曖昧さ」と「多様性」です。日本は様々な顔があります。もちろん、日本が伝統と現代性を組み合わせる、コントラストに満ちた国だというのは、陳腐な表現に他なりません。また、日本をエキゾチック化し、脱構築する傾向もあります。しかし、目まぐるしく変化する世界は、社会的・文化的現象を解釈するための新たな文脈を生み出し、私たちの記憶の中で薄れてしまった歴史のイメージを再び鮮明にすることも多いです。例えば、現在の世界観の摩擦は、西洋の世界秩序のビジョンに立ち向かった戦前の日本に新たな光を当てています。一方、19 世紀半ば以降の日本を変化させて形成した過程を理解することは、歴史叙述や植民地主義の清算、あるいは教育制度のビジョンをめぐる現在の論争を解明するのに役立ちます。AI 技術の急速な発展に対する今日の懸念は、ほぼ一夜にして世界を理解するた

めの新しい方法を取り入れるように言われた 19 世紀の日本人の恐れを理解するのに役立ちます。新しい知識と新しい事実に直面し、私たちの日本に対する認識はより広範で多面的なものとなり、その姿はより複雑になっています。私たちは、自分たちの研究成果を発表することによって、お互いに知識や考えを共有し、刺激し合い、そしておそらく最も重要なことですが、良好で友好的な関係を築きたいと考えています。

今回の研究学会は、対面開催という良き伝統への回帰です。オンライン・レクチャーや長時間のプレゼンテーション・シリーズを計画しているわけではありません。学術的なディスカッションの機会を設けることで、最も創造的なアイデアは、コーヒーを飲みながら、講演の合間の何気ない会話から生まれるという考えを堅持しています。

広い意味での日本研究（文学、言語学、歴史学、美術史、社会・政治科学、文化研究、宗教学、哲学）を代表する専門家を招聘します。発表件数は 60 件程度を予定しています。会議使用言語は英語と日本語。



カタジナ・ノヴァク

日本美術・技術博物館 Manggha 館長



スタニスワフ・マイヤー

ヤギエロン大学日本中国学科長



主な情報

主催者：

マンガ日本美術技術博物館、ul. M. Konopnickiej 26, 30-302 Kraków, Poland

ヤギエロン大学日本中国学科、al. Mickiewicza 9, 31-120 Kraków, Poland

会議会場：マンガ日本美術技術博物館

会議ウェブサイト：<https://manggha-and-manga.confer.uj.edu.pl/>

Eメール：manggha.and.manga@uj.edu.pl

参加費：一般 450PLN、博士課程学生 100PLN。

発表の概要は以下のテンプレートに従ってEメールでお送りください：

氏名、学位

所属機関

Eメール

ORCID（該当する場合）

演題

概要（英語 200 語または日本語 500 字）

キーワード（3～5 個、英語または日本語）

締切とスケジュール

2024 年 4 月 30 日：応募締め切り

2024 年 5 月 31 日：選考結果通知（主催者）

2024 年 8 月 31 日：参加費支払い締め切り

2024 年 10 月 3 日～5 日：会議